

在京仙台二高同窓会懇談会
「北社会」21年の歩み

主宰 青山 史朗
会場 住友クラブ
● はゲスト講師、敬称は略

回		講師名	職業	演題
1	50・9・9	●安西 浩	東京ガス会長	シベリア油田開発について
2	10・15	大石 武一	衆議院議員	最近の政治情勢
3	12・22	内海 碩	三井物産社員	フラン圏アフリカの現状
4	51・1・16	橋本 保雄	高 3 ホテルオークラ取締役	ホテル経営の苦心
5	2・16	友近 陽一郎	高 2 関東財務局理財部長	世界の酒を語る
6	3・15	佐藤 道輔	高 8 東大和高校野球部監督	高校野球を指導して
7	4・15	佐藤 治男	中38 NHK広報室長	日本のT・V放送の現況について
8	5・14	及川 孝平	中31 全国漁業連合会会長	日本の漁業はどうなる
9	6・15	栗林 卓司	高 1 参議院議員	最近の政界裏話
10	7・15	吉田 直哉	高 1 NHKチーフディレクター	プロジェクトチームの作り方
11	9・16	高橋 直身	中43 明治大学農学部教授	各回の講師を中心とした懇談会
12	10・14	常盤 新平	高 2 アメリカ研究・翻訳者	今後の食糧問題と畜産
13	11・15	越智 啓介	中40 外務省領事移住部長	マフィアの実態 最近の外交問題雑感
14	52・1・14	宇田 宏	中46 宇宙開発事業団次長	わが国の宇宙開発の現況
15	2・15	渡辺 龍雄	中46 通産省開発室長	情報利用こぼれ話
16	3・15	渋谷 博	高 7 東京大学医科学研究所	ウイルス病のトビックス
17	4・14	猪瀬 寧雄	中26 日本建設コンサルタント社長	海外援助の実情と技術者の夢
18	5・15	渋谷 隆一	中47 駒沢大学経済学教授	明治期庶民金融雑感
19	6・14	安久津英男	中42 動力炉核燃料開発事業団東海事業所長	日本の原子力と核燃料の問題
20	9・14	和賀井敏夫	中42 順天堂大学医学部教授・朝日賞受賞	超音波の医学利用について
21	10・14	山田 俊雄	中40 成城大学教授	国語辞書の理想と現実
22	11・14	三宅 正樹	高 4 明治大学教授	日独伊三国同盟と松岡洋右
臨時	11・18	鈴木 進	中40 大洗工学センター所長	◎大洗工学センターと
		安久津英男	中40 動力炉核燃料開発事業団東海事業所長	動力炉核燃料開発事業団見学旅行会
23	53・1・17	長谷田彰彦	中40 東京学芸大学教授	今年の景気の動向
24	2・15	岩崎 栄	高 2 大日本インキ化学工業株商品企画部長	最近のブラジル事情
25	3・15	山川 民夫	中39 東京大学医学部生化学教室教授	糖脂質について(朝日賞 恩賜賞受賞 記念講演)
26	4・13	安齊 伸	中43 上智大学教授	現代文明化社会と宗教
27	5・15	大石 武一	中27 参議院議員	政局の動向を聞く
28	6・15	栗林 卓司	高 1 参議院議員	(対談)
29	7・17	高橋由貴彦	高 1 写真家	「見えざる国への旅」支倉常長のこと
30	10・16	那須 翔	中42 東京電力総務部長	わが国の電力事情
31	11・15	吾妻 常雄	中42 防衛庁調達実施本部副部長・空将	米国駐在防衛官雑感
		阿部 徹雄	中32 朝日新聞名誉職員	巨匠のことば
32	54・2・15	安藤 太郎	中27 住友不動産株社長	時局を語る
33	3・15	長谷田彰彦	中40 東京学芸大学教授・財政学	インフレはくるか
34	4・16	中島義四郎	中16 河北病院顧問	貝原益軒の養生訓とわが実践
35	5・15	鈴木 尚夫	中35 筑波大学教授・農業経済学	国有林の生いたちについて
36	6・15	鈴木 忠和	中34 千葉大学園芸学部教授	ビルマ事情と農業
37	7・16	鈴木 進	中40 動力炉核燃料開発事業団本部長理学博士	新しい原子炉燃料とその周辺の問題
38	9・17	合田 周平	高 3 電気通信大学教授・工学博士	異文化間のコミュニケーション
39	10・15	佐藤 修吉	中37 東芝電気器具株常務取締役	MRA国際会議に参加して
40	11・15	栗林 卓司	高 1 参議院議員	政局を語る
41	55・2・15	●薦田 真実	キリスト教会牧師	教育にては果たせぬ事を
42	3・17	●鈴木 まどか	西洋美術史家	エジプト美術史入門
43	4・15	伊達 宗行	中47 大阪大学理学部教授	私の見たソ連・中国の科学
44	5・15	●高橋 勸次郎	日本電子株副社長	八十年代産業への挑戦
45	6・16	小金沢昭光	高 3 水産庁管理官	沿岸漁業研究の推移
46	7・14	大野 壇	中48 三菱重工株海洋開発部	深海潜水艇の開発について
47	9・16	高澤 博	中44 日本郵船常務取締役	日本海運界の現況
48	10・15	大日方達一	中45 新日鉄鋼管技術部長	日本鉄鋼業の現況
49	11・17	中嶋義四郎	中16 河北病院顧問	世界小児科学会に出席して
50	12・15	渋谷 博	高 7 東京大学医科学研究所	ウイルス研究の面白さ

51	56・2・16	穂積 和夫	高 1	イラストレーター	法隆寺建設過程を描いて
52	3・16	君ヶ 袋尚志	高 4	熱帯農業研究センター	熱帯農業研究について
53	4・15	●倉岡 隆輔		三井鉱山常務取締役	石炭鉱業の現況と将来
54	5・13	吉田 直哉	中49	NHKチーフディレクター	テレビマンの見た中国
55	6・15	大石 武一	中27	参議院議員	国際軍縮の諸問題
56	7・14	●豊原 兼一		NHK解説委員	変わりゆく中国
57	9・16	高橋 志保彦	高 6	建築設計家	新しい都市美の設計
58	10・15	松隈 昭	中45	三菱化成安全化学研究所・理学博士	安全な化学物質はあるか
59	11・16	●高野 悠		NHK解説委員、前アメリカ総局長	アメリカのたくましさ
60	57・2・15	一力 健	高 3	電通国際情報サービス㈱常務取締役	国際情報サービスについて
61	3・5	松本 登	中34	空港コンサルタンツ㈱副社長	空港建設の諸問題
62	4・14	●愛知 一男		衆議院議員	日本の外交問題を語る
63	5・14	佐藤 力	高2	慶応大学工学部教授	日米エレクトロニクスの差
64	6・16	安久津英男	中40	原子力技術㈱取締役社長	なぜそれでもなお原子力か
65	7・15	長谷田彰彦	中40	東京学芸大学教授	日本経済の動向
66	10・15	渋沢 良一	高 2	読売新聞社運動部次長	プロ野球うちあげ話
67	11・15	渋谷 正史	高15	東京大学医科学研究所教授	ガンウイルスをめぐって
68	58・2・15	増本 剛	中42	金属材料技術研究所金属物理研究部長	最近話題の先端技術について
69	3・15	青木 宏	中44	大妻女子大学食品科教授	いま食品の魅力とは
70	4・18	高橋由貴彦	高 1	東京クリエティブ社長	旅と歴史と人生と
71	5・16	佐藤 一郎	高17	東京芸大油絵科教官	洋画の技法について
72	6・16	●棟方 久男		元三菱商事勤務	最近のスペイン事情について
73	7・18	宇田 宏	中46	宇宙開発事業団筑波宇宙センター所長	わが国と諸外国の宇宙開発現況
74	9・16	●平野 弥		ダイキン工業顧問	日本経済の大動脈シーレーン
75	10・13	橋本 保雄	高 3	ホテルオークラ常務取締役	世界飛び歩きー海外旅行のノウハウ
76	11・15	柴田 徹一	高 9	慶応大学医学部講師 薬学博士	医薬界の現況
77	59・2・15	天江喜七郎	高14	外務省情報文化局外国プレス室長	今年の国際情勢と日本の外交
78	3・16	式場 英	高 4	日本電信電話㈱企業通信システムサービス部長	INSとニューメディアの展望
79	4・16	吉田 博之	高 4	日本エヌ・エス ㈱事業本部・工学博士	原子力の問題点と将来
80	5・16	市川比良久	中48	東京都立大学生物科助教授	生命の組立て
81	6・18	菊田 義孝	中33	作家	私の文学体験ー太宰治との出会い
82	7・16	名取 荘夫	中46	ハワイ大学教授	アメリカの医療について
83	9・19	佐々木 襄	中46	富士カード社長	最近のカード事情
84	10・15	成瀬長太郎	中48	電気通信大学教授	歯車工学の発展の歴史と現状
85	11・15	吉田 直哉	中49	NHKチーフディレクター	北と南の世紀末
86	60・2・15	高橋 敬	中49	大日本インク化学工業㈱事業部長	米国勤務十三年の体験
87	3・15	棚沢 一郎	高 6	東京大学生産技術研究所教授	生物と温度
88	4・15	高橋 直身	中43	明治大学農学部教授	細胞工学による人工肝臓の形成
89	5・15	合田 周平	高 3	電気通信大学教授	ニューメディア時代の文化と技術
90	6・17	渡辺 定久	高 2	工業技術院電子技術研究所	ワープロの現状と将来
91	7・15	平 朝彦	高17	東京大学海洋研究所教授	海溝と大山脈ー伊豆沖海底四千米ー
92	9・17	渡辺 龍雄	中46	(財) テクニクス 振興センター専務理事	新情報化時代
93	10・14	●山路 賢吉(仙台一中卒)		日立電線㈱専務取締役	超の時代ー最先端技術について
94	11・15	満十周年記念集会 パネルディスカッション コーディネーター 長谷田彰彦 パネリスト 高橋 直身 合田 周平	中40 中43 高 3	東京学芸大学教授 明治大学農学部教授 電気通信大学教授	日本の進路
95	61・2・17	佐藤 泰平	高 6	立教女学院短期大学教授	宮沢賢治の詩の世界
96	3・17	長谷田彰彦	中40	東京学芸大学名誉教授	日本経済の動向(退官記念講演)
97	4・15	永井 淳	中46	㈱東京芝浦電気総合研究所所長	最新技術の研究情報
98	5・15	堤 堯	高 7	㈱文芸春秋編集長	最近会った人たち(編集手帳から)
99	6・16	佐川 洋	中46	大阪石油化学㈱常務取締役	世界の石油事情
100	7・15	山口 真一	高 6	日揮㈱	北社会百回記念 各体験発表(有志数名)
101	10・15	桂 重俊	中40	東北大学名誉教授	梯子と踏台(退官記念講演)
102	11・18	青山 史朗	中40	東京アドソルタツト ㈱社長	日本私立美術館の名宝(美術書上梓記念)

103	62・	2・17	塩沢 厚	高 2	万有製薬(株)医療情報部長	チベットの旅
104		3・16	内海 碩	中40	欧州アフリカ貿易コンサルタント	海外駐在25年の体験
105		4・14	赤岡 充康	高 3	ワールド・ビジネス・エンタープライズ取締役社長	新製品「ひまわり」について
106		5・15	山本 昭市	高 3	帝都高速度交通営団理事	今・なぜ・税制改革かーその背景と考え方
107		6・15	高橋由貴彦	高 1	(株)東京クリエイティブ社長	新井白石とシドーティ
108		7・15	遠山 文雄	高13	東海大学工学部航空宇宙学科	日本の宇宙開発
109	9・24	安藤黎二郎	高 3	セイコー電子工業(株)専務取締役	自動組立てについて(その進歩と歴史)	
110	10・15	官沢 文彦	高13	国立ガンセンター室長	制ガン剤の開発研究	
111	11・16	木村 良和	高14	(株)野村総合研究所	アグリバイオのビジネス事業化の現状と展望	
112	63・	2・15	本間金一郎	中40	元 三井船舶船長	日本商戦団奮戦す
113		3・15	工藤 寿一	中44	スポーツドクター	ドーピングの話と熟年スポーツのあり方
114		4・14	小松 茂昭	中48	元 中東経済研究所参事	アラブの民族性と政治経済の特性
115		5・16	式場 英	高 4	N T T理事・企業通信システム事業本部長	「NIT はいま・」企業の現況と将来への展望を語る
116		6・15	大久保 毅	中49	本田技研工業(株)会長	「本田技研はいま・」企業の現況と将来への展望
117		7・15	渋谷 良一	高 2	セントラル野球連盟事務局長	「加野球はいま花盛り」ー野球運営裏話ー
118		9・16	渡辺 龍雄	中46	(財)データベース振興センター専務理事	「データベース 産業はいま・」そして明日
119		10・17	那須 翔	中42	東京電力(株)社長	「東京電力はいま・」
120		11・16	会田 周平	高 1	電気通信大学教授	「E. C. はいま・」
121		平成 元年	2・15	和賀井敏夫	中42	順天堂大学教授
122	3・15		高橋由貴彦	高 1	東京クリエイティブ社長	天正使節の欧州見聞記
123	4・17		●川崎房五郎		江戸歴史研究家	「江戸に学ぶ」ーその特色ー
124	5・15		●寺谷 弘壬		青山学院大学教授	ゴルバチョフの内外政策
125	6・15		出村 博	高 4	東京女子医大教授	ホルモンの話
126	7・17		渡辺採種場社長	高 6	渡辺採種場社長	品種を作る
127	9・18		遠藤 祐二	高12	通産省工業技術院地質調査所	「東海地震は起こるか」その予知の問題
128	10・16		●中村 溪男		山種美術館顧問	絵の見方
129	11・16		平 朝彦	高17	東京大学海洋研究所教授	海洋調査技術の最先端
130	2・	2・15	吉田 直哉	中49	N H K専務理事	T Vの自分史
131		3・24	渡辺 龍雄	中46	データベース振興センター専務理事	◎TEPIA 見学ー最新先端技術を楽しむ会
132		4・21	小金澤昭光	高 3	水産工学研究所所長	◎日本漁業をリードする研究施設の見学
133		5・29	橋本 保雄	高 3	ホテル オークラ専務	◎霞友会館料理長石川新緑氏のフランス料理を賞味する会
134		6・15	原 芳道	高11	伊藤忠商事(株)金属原料部長	オーストラリア新事情
135		7・20	高橋 孝夫	高 6	サッポロビール(株)都市開発本部長	◎できたてのビールを鯨飲する会(サッポロビール 船橋工場)
136		9・29	安藤黎二郎	高 3	セイコー電子工業(株)代表取締役	◎ハイテク産業を垣間見る会(市川市・高塚)
137		10・15	●山元 順雄		三菱総研国際政策部長 工学博士	国際平和のためのー国際総合開発ー構想について
138		11・19	安藤 太郎	中27	住友不動産(株)会長	安藤太郎会長(勲一等瑞宝章)叙勲祝賀会
139	3・	2・15	平 朝彦	高17	東京大学海洋研究所教授	四億年に及ぶ壮大なドラマ「日本列島の誕生」
140		3・15	●山本 孝造		工業デザイナー	びん類の歴史と生活文化の変遷
141		4・15	佐藤 隆夫	中42	國學院大学法学部教授	ドラフト制の是非、プロ野球の法律問題
142		5・11	塩出 俊一	高13	富士通京浜システムエンジニアリング 部長	◎富士通・沼津工場見学 1号機と最新鋭機のデモ
143		6・17	鶴沼 功	高 4	日本軽金属(株)専務取締役	アルミニウム産業の現状と今後
144		9・14	森 郷己	高 3	前自動車安全運転センター理事	◎自動車安全運転センター 見学と水戸在住同窓生交歓会
145		10・15	近藤正太郎	高 3	大田赤十字血液センター所長	変わりゆく血液事情
146		11・15	●小平 忠生		美術写真家	美術写真撮影の苦心ー故宮美術院名品を撮影してー
147	4・	2・19	杉田 愼	高 7	日立製作所中央研究所技師長 理学博士	磁性体の魅力
148		3・16	●寺谷 弘壬		青山学院大学教授(ロシア問題研究家)	ロシアはどうなる・
149		4・18	●米山 寅太郎		静嘉堂文庫美術館館長	◎静嘉堂文庫美術館見学及び美術品解説
150		5・15	●小野寺義幸		知恵工房主宰・お茶の水女子大学講師	どうする日本の食料・どうした日本の農業
151		6・15	●末永 照和		実践女子大学教授・美術評論家	パロセロナの画家たち
152		7・13	館沢 貢次	高17	フリージャーナリスト	佐川急便事件の真相を語る
153		9・16	阿部 博男	高 3	元・空将 日本エアシステム顧問	戦略環境変化と今後の防衛力の方向
154		10・15	●荒川 浩和		東京国立博物館名誉館員	うるしと日本文化
155		11・17	千葉 英之	高 4	読売新聞社調査研究本部 主任研究員	作家は猿、編集者は猿回し
156	5・	1・15	内海 碩	中40	欧州アフリカ貿易コンサルタント	私の体験 ホンガイ炭・夢の繊維・熱砂の監獄
157		3・16	渡邊 邦夫	高 4	山田総業(株)専務取締役	銀行支店長からゴルフ場経営へー出向の苦心を語るー
158		4・14	橋本 保雄	高 3	ホテル オークラ 専務取締役	「新事業への展開」ー日本の葬式産業を考えるー
159		5・17	式場 英	高 4	(株)トリアス・ネットワーク・システム 代表取締役	「新事業への展開」ー日本のニュー・メディア・ビジネスを考える
160		6・15	浅野 裕一	高 7	東北大学国際文化研究所 教授	武田信玄の兵学思想

161	5・7・15	小坂 義裕	高 7	富士通株式会社 技師長	宇宙開発とスーパーコンピュータ
162	9・16	平間 久雄	高 3	(財)東北産業活性化センター 専務理事	東北のローカル・ルネッサンス
163	10・15	合田 周平	高 3	電気通信大学教授	エコロジーを基盤とした文明論
164	11・16	堤 堯	高 7	(株)文藝春秋 常務取締役 出版総局長	「編集裏話」ーわれわれの視点ー
165	6・1・15	浅野 史郎	高18	宮城県知事	県政への抱負を語る 全会員による新年祝賀会
166	2・15	佐藤 隆輔	高 5	NHK チーフ アナウンサー	スポーツアナ30年の哀歓
167	3・15	小野 泰正	高 2	岩手大学教授 (動物生態学)	かけがえのない自然と動物たち
168	4・15	菅野 修二	高14	日本航空(株) 秘書部長	航空業界はいま・・・ー新たなる飛翔をめざしてー
169	5・17	天江喜七郎	高14	外務省審議官 (報道・広報担当)	最近の日本をとりまく国際情勢
170	6・15	日野 市朗	高 4	衆議院議員	最近の政治状況 ー社会党の進むべき道ー
171	7・15	●矢部 良明		東京国立博物館 陶磁室長	やきもの楽しみ
172	9・16	鈴木 進	中40	理学博士 (株)ベスコ相談役	核燃料開発の黎明期から携わって
173	10・14	中島 信吾	高 8	朝日新聞社編集委員	「私の会った人」 谷川徹三 上坂冬子 沢村貞子
174	11・15	矢野浩一郎	高 2	元・消防庁長官	地方分権を考える
175	7・2・15	川村 忠良	高 5	マヤ文明研究者	マヤの神 縄文の神 (JTKロスカルチャー奨励賞受賞)
176	3・15	鈴木 勝王	高16	石油資源開発(株)探鉱部次長	オイル・ドームの街 (ヒューストン) ー米国の石油開拓史ー
177	4・17	熊谷 芳博	中39	理想教育財団専務理事	渡部昇一 上智大学教授講演を聞く
178	5・15	桜井良之助	高11	東京都議会議員	都政のかかえる諸問題
179	6・15	神谷 弘	中39	元・国鉄技師 OECF嘱託	中央アジア (旧ソ連邦) の最新情報
180	7・17	河田 貞	高 5	元・奈良国立博物館工芸室長	正倉院とシルクロード
181	9・18	高橋由貴彦	高 1	東京クリエイティブ社長	天正・慶長使節のエピソード
182	10・7	20周年記念旅行		ハワイ旅行	ホノルル総領事天江喜七郎氏を訪ねる
182	11・15	青山 史朗		東京アドコンサルタント(株)社長	「北社会」20年の歩み 思い出の講演のなかから
183	8・1・30	西澤 潤一	中44	東北大学長	東北大学とマルチメディア
184	6・10	渡辺 正明	高 6	渡辺経営事務所代表	命・企業・団体・地域の危機管理
185	7・15	日野 市朗	高 4	衆議院議員	郵政大臣を担当して
186	9・18	青山 史朗	中40	東京アドコンサルタント(株)社長	人間国宝の人と作品 ースライド80点上映ー
187	10・14	佐藤 千春	中49	早稲田大学教授	野球の源流
188	11・25	山口 達男	高 3	前・スペイン大使	あひるのみずかき ー外交官生活40年の思い出ー
189	12・16	那須 翔	中42	東京電力(株)会長	電気屋が最近思うこと (閉会)

「北社会」21年の思い出

青山史朗

昭和50年春在京同窓会の再建はなった。出来たばかりの会員名簿を見て佐藤一郎氏(中35)は唖った。多士済々これ程の優秀な人材を活用しない手はない。講師に引きその専門分野の話を聞かせて頂こうと始まった勉強会が21年189回をもって幕を閉じたが、いま多くの感慨をこめてエピソードのいくつかを披露しようと思う。

○第1回は東京瓦斯会長安西浩氏であった。氏は東北大学生の身分で物理学を教えておられたそうだが、なにせ母校が北六番町時代の昔のことで、安藤太郎住友不動産社長や大先輩たちが薫陶を受けられた方である。氏は翌朝ソ連政府の招聘で羽田から出発の前夜ヤクサーチャ・チュニメ油田の開発について熱弁をふるわれた。82才の高齢にもかかわらずポンポン飛び出す数字の明細にはただ驚くばかりであった。

以下等に思い出に残る講師たちをご紹介します。

○吉田直哉氏(高1)NHKチーフディレクター「プロジェクトチームの作り方」黒沢明監督の七人の侍がその代表例なそうで、日本のテレビ界の最高実力者の体験にもとづく話だけに誠に示唆に富んだものがあつた。翌月王子製紙の赤間専務(中32)が早速自社内に新チームを結成した旨報告されたが、これなどは講演が実際に役立った例である。

○安久津英男氏(中40)動燃東海事業所長鈴木進氏(中40)大洗工学センター所長

昭和50年当時日本の原子力利用の最高権威がわが同窓で占められていたことをご存じであろうか。会員20余名を引き連れて見学旅行に出かけ大歓待を受けたが、最近の動燃の事故の話の聞くにつけ、急逝した同期の安久津君を思い胸の痛みを禁じえない。

○大野檀氏(中48回)三菱重工海洋開発部長「深海潜水艇開発について」建造費38億、11年の歳月を費やし深度2000米の海底を探索する潜水艇の建造苦心談で、3万噸の圧力に耐えるものを作るために、どれ程多くの企業が協力しあつたかを語った。

○平朝彦氏(高17回)東大海洋研究所教授「海洋調査技術の最先端に行く」大野氏が造った船に乗り研究する教授。二人とも何度も現場で顔をあわせながら同窓であることを全く知らず、私の紹介で感激のご対面となった。

その後4000米~6000米の新鋭船が進水し、平教授は今でも日本海溝の深海プレート移動の研究に携わり大きな成果を学界に発表している。

○天江喜七郎氏(高14)日本国総領事「ホノルル総領事公邸訪問旅行」北社会20周年を記念し総勢31名、マウイで二日ゴルフと観光を楽しんだ後夕方近く白亜の公邸を訪問した。まず我々が目にし耳にしたのは緑の芝生に演じられるハワイアンダンスの優美な動きと音楽であった。それはかつて見たこともない上品で見事なものであった。

酒は天江本家寄贈の名酒「天賞」料理は公邸シェフが腕をふるった美味。酔うほどに歌となり、総領事おハコの青葉城恋歌に始まるカラオケの饗宴は聴き惚れるばかり。

いかに戦後母校の音楽教育が充実していたか?を証明して余りあつた。そして終りは日本一の校歌「あなたふと」がホノルルの夜空に高らかに流れた。

○那須翔氏(中42)東京電力会長「電気屋が思うこと」平成8年12月16日閉会記念講演は同窓の出世頭那須さんをお願いした。日本の電力業界のリーダーとして活躍中の氏は水力・火力・風力など多様な発電方法があるにせよ原子力利用はどうしても欠かせぬと言われ、いまだに一人の死者もでていない安全性を見てほしいと結んだ。講演後超満員の出席者のため立食パーティーとなり、安藤太郎会長、山川民夫先生ほかの会員から小生への慰労のお言葉と花束を頂戴し、さっと過ぎた21年の会の流れに万感胸に迫るものがあつたが、あらためてよき友人たちと出会えた幸せに感謝している。